

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 37

2018年7月発行

春季企画展

植田家にのこる絵図と地図

ぶらりまちあるき

長瀬川・八尾寺内町 編

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十一)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

展示のご案内

【通常展】

大和川付替えと植田家の収蔵品

2018年

7月20日(金)～9月2日(日) - 工芸品編 -

9月5日(水)～10月24日(水) - 資料編 -



通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」では、河内平野の変遷、大和川付替えの歴史、そして八尾を含む河内地域と旧植田家の出来事を、年表形式のパネルで分かりやすく展示しています。また植田家の収蔵品の一部を紹介します。

うえだけ しゅうぞうひん
植田家の収蔵品

植田家には近世から近代まで約38,000点の古文書のほか、陶磁器類、漆器、金属器など数々の工芸品が収蔵されています。工芸品編では植田家の特徴を示す茶道具類、資料編では新田開発の様子を示す文書類を展示します。

※休館日はP15をご覧ください

通常展

「大和川付替えと植田家の収蔵品」

2018年 7月20日(金)～9月2日(日) 工芸品編

9月5日(水)～10月24日(水) 資料編

大和川付替えの歴史に関するパネルと植田家にのこる収蔵品を一部展示します。

Contents

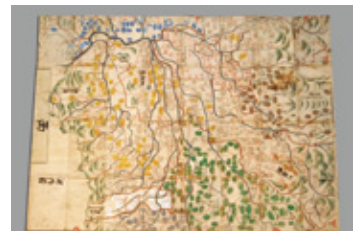
- 4 春季企画展
植田家にのこる絵図と地図
- 6 旧家で記念撮影～こどもの日～
- 7 講座「八尾の芸術文化について」
- 8 ぶらりまちあるき
長瀬川・八尾寺内町 編
- 10 ボランティアガイド養成講座、始まりました
- 11 四会所だより(17)-加賀屋新田会所-
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ③
- 13 植ちょピ(告知:冷やし旧家、はじめました。)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十一)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

《大和国拾五郡絵図》(廣瀬郡周辺部分)

1720年代に作成されたとみられる大和国(現奈良県)の巨大絵図。7分割された内の「廣瀬郡周辺」には、植田家のルーツでもある田原本と藩主・平野権平の名が確認できる。詳細は、4・5ページに掲載。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

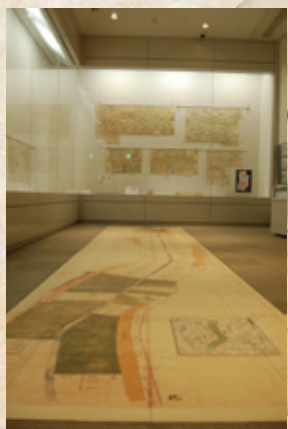
公文書絵図から観光地図まで

植田家にのこる 絵図と地図

平成30年度企画展

安中新田分冊絵図(複製、展示室常設)

ココ
会所屋敷→



絵図地図づくしの展示室



北村茂章氏特製のまっぷも展示

2018年

4/28(土)



7/16(祝・月)

春季企画展「植田家にのこる絵図と地図」

いま世の中はインターネットの普及などによりますます便利に、そしていつでもどこでも情報が手に入るようになった。一方でパソコンやテレビの無かった時代はどうだったのか。宝永元年(1704)の大和川付け替え後、柏原市玉手山の安福寺によって開発された安中新田は、正徳元年(1711)に作成された《安中新田分間絵図》(市指定文化財)によると、複数の主体から成る新田の総称であることがわかる。また、現在の植田家住宅の位置には「会所屋敷」と記され、植田家が支配人になる以前から、この場所が「会所(公的機関)」として使用されていたことがわかった。

大和国田原本(奈良県)出身の植田家(※)が、この地にやって来たのは新田開発からおおよそ50年後のことであり、以降、安中新田の支配人を代々務めるとともに、農業、産業、政治、教育といった様々な分野に関わり、事業を展開していく。こうした中において、近世から近現代までの文書、絵図や地図が多くこのころ、それぞれの役割や歴史を今に伝えている。

本企画展では、安中新田の時代から近代までその変遷を示す各種「安中村絵図」(公文書絵

※初代植田林蔵の父は、大和国田原本藩主・平野権平の家来である梶尾勘兵衛

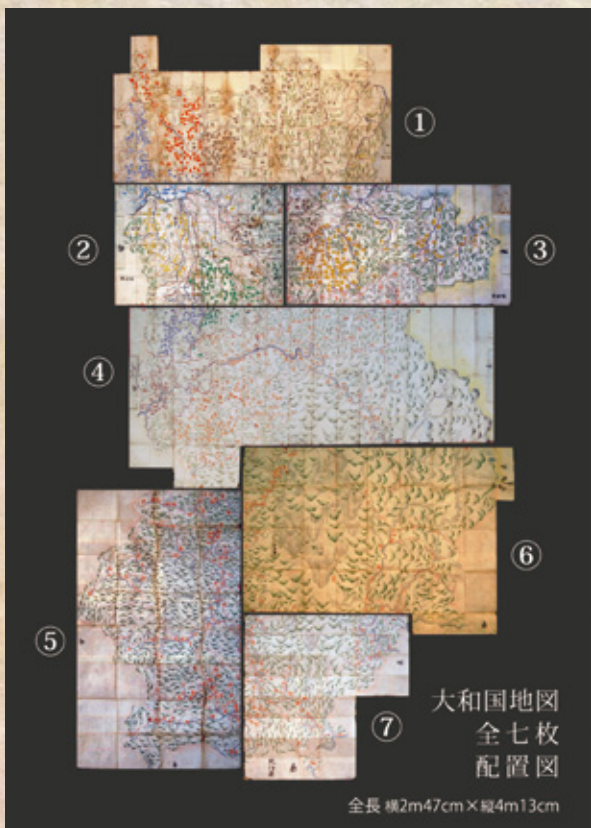


小さく折りたたまれた七枚の絵図が
封筒(左)にまとめて保管された

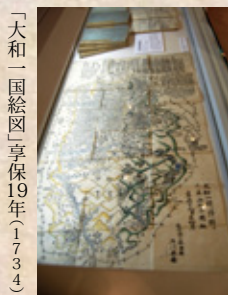


《大和国拾五郡絵図》1722～23年ごろ作成

大和国15郡が七枚に分けられた絵図。
記号にしたがってつなぎあわせると…
全長 縦4m×横3mにも及ぶ一枚の
巨大絵図が完成！



- ①「山邊・添上・添下・平群郡」
- ②「十市・廣瀬・葛下・式上・式下・忍海郡」
- ③「宇陀郡」
- ④「宇知・葛上・高市郡」
- ⑤「吉野郡三枚之内」(中津川・上湯ノ川ノ門河俣等)
- ⑥「吉野郡三枚之内」(大峯山周辺)
- ⑦「吉野郡三枚之内」(小釈迦嶽大日・紀伊国境まで)



「大和一國絵図」享保19年(1734)



「大和名所図会」寛政3年(1791)刊

大和国関連の資料は他にも。

図をはじめ、植田家のルーツといえる大和国
関連の絵図のほか、植田家の家相を占った「家
相図」や当時の観光ガイドブックといえる「河
内名所図会」と「大和名所図会」などの展示を
行なった。また、「現代の絵図」として、八尾市
を中心にまちあるきを行ない、それをマップに
するまっふ師こと北村茂章氏の過去の絵図も
特別に展示することができた。

情報とは、ただ「有る」のではなく、自らの足
で稼ぎ、得られるものであるが、その情報を共
有する手段として絵図が存在すると思う。

(旧植田家住宅 学芸員 安藤亮)

植田家で記念撮影をしよう！

きゅうか

きねん

さつえい

旧家で記念撮影

～こどもの日～

2018. 4/28(土)～5/13(日)



様々な年中行事や記念日に旧植田家住宅で記念撮影をしよう、という企画「旧家で記念撮影」は、今年度も「こどもの日」から始まりました。昨年からは撮影できるようにスペースを設けている座敷では、五月人形が子どもたちの健やかな成長を見守りながらその役割を果たしています。また用意した二種類のダンボール製甲冑（ハイクオリティ）は自由に着ることができ、甲冑を身にまとい五月飾りや豪華な金襴の前で記念撮影を楽しみました。

今年は、昨年も参加をしてくれた子どもたちがそろって尋ねてきてくれましたが、一年の間にずいぶん大きくなったことを思います。柱の傷はありませんが、また来年も「今年と」背比べができると思います。

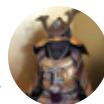
さて早くも来年の「こどもの日」についてのお話ですが、同じ時期に開催を予定。五月飾りも少しだけ豪華に。そして紙製ではない甲冑も登場する予定です。お子さんをお持ちのご家族の皆様は、今から予定を空けておいてください。



はい、ポーズ!!



こどもたちの健やかな成長を見守っています。



講座『八尾の芸術文化について』

八尾市市制70周年、八尾市文化会館プリズムホール開館30周年、安中新田会所跡旧植田家住宅開館10年目など、八尾市において様々な節目の年である2018年。旧植田家住宅ではプリズムホール館長の大久保充代氏をお招きし、6月16日(土)、「八尾の文化」をテーマとする講座「八尾の芸術文化について」を開催した。

講座では、会場となる座敷にあわせ艶やかな着物姿で登場した大久保氏の姿に、まずは館長をよく知る参加者たちから驚きの声が上がった。貴重な姿のまま、本題ではプリズムホール30年のあゆみの中で起こった



講座“八尾の文化”

2018年
6/16(土)

八尾の芸術文化について

講師：大久保充代氏（八尾市文化会館プリズムホール 館長）

八尾市 市制施行 70 周年

プリズムホール 開館 30 周年

旧植田家住宅 開館 10 年目



様々な出来事や苦難と喜び、また八尾の芸術文化に対するホールとしての姿勢を話された。開館当初からホールに関わってこられた大久保館長ならではの視点で、今後の展望についても余すところなくふれ、ホールをよく利用する参加者も知らなかった内外の情報に改めて驚かされる話もあり、プリズムの魅力により磨きがかけられた。

ひと、地域、文化との出会いの場となるプリズムホールが、今後さらに地域に根ざし、またそこに関わるひとり一人の人生を豊かにしてくれる場所となってくれることを願い、プリズムホールと旧植田家住宅との文化的コラボもいづれ実現できる日はそう遠くはないことを感じた。

(安藤 亮)



① JR八尾駅

1889年(明治22)湊町駅から柏原駅間の開通時に開業。
3代目の駅舎が、2013年(平成25)橋上駅舎完成、使用開始する。

② 旧帝国製糸八尾工場

1897年(明治30)建築の然糸工場棟、明治40年~大正時代の倉庫棟の赤レンガ造りなどの工場群、昭和初期建築の洋館風の木造の事務所棟があった。設計は当時レンガの工場建築を多く設計している建築家・茂庄五郎。
1895年(明治28)に日本カタン糸製糸工場としてつくられ、1907年(明治40)帝国製糸八尾工場、1943年(昭和18)富士紡績の工場となり、1986年(昭和61)に取り壊された。

③ 八尾警察署

旧警察法により、1948年(昭和23)八尾市警察が設置。
1954年(昭和29)新警察法により大阪府警八尾警察署となる。
現在の建物は、1966年(昭和41)建築。

④ 狐山

旧大和川(久宝寺川)の西岸の堤跡で、日高大神が祀られていたが、現在は渋川神社に移されている。

⑤ 八尾教会(ヴァーナ・S・ハツラー記念会堂)

1956年(昭和31)、市内では唯一のウィリアム・メレル・ヴォーリズによる設計の建築で、最晩年の建築の1つ。当時、在日45年の宣教師ヴァーナ・S・ハツラー師の長年の功績をたたえ、日米の信者が献金し記念聖堂が建築された。

⑥ 慈願寺

2006年(平成18)、本堂・経蔵・手水屋・鐘楼・表門・脇門と築地塀・太鼓樓の7つの建造物が国登録有形文化財に指定。1280年(弘安3)に信願房法心が開基し、5世紀後半、本願寺第8代蓮如上人の時代、その布教活動の先導役をつとめ、久宝寺寺内町の基礎をつくった。
現在の本堂は、1814年(文化11)の火災後、再建されたもの。

⑦ レンガ建築

明治の初めから昭和の初め頃たくさん作られたが、関東大震災で倒壊建物がでたため、それ以後ほとんど建てられなくなった。
八尾では、数棟しか現存しない。

⑧ 大信寺

1953年(昭和28)、白アリ被害による本堂倒壊のため、1967年(昭和42)に京都タワーの設計で知られる棚橋諒の設計で鉄筋コンクリート造りの本堂に再建。もとの木造建物は、本堂が、東京都港区の善福寺にほぼそのまま移築され、港区の有形文化財に指定。また表門と鐘楼も三重県桑名市の桑名別院本統寺に移築されている。

⑨ 八尾天満宮

八尾寺内町の鎮守で、1600年頃(慶長年間)に片桐且元が創建したと言われ、中門は寺内町の木戸を移築したと言われている。

⑩ 常光寺

創建は、南北朝時代(1336-1392年)に遡る。建物は、1707年(宝永4)の大地震により被害を受け、阿弥陀堂が1772年(天明2)、本堂は1780年(天明2)、行者堂は1710年頃再建された。現在は山門(楼門)とともに、市指定文化財(建造物)に指定されている。

⑪ 近鉄八尾駅

1924年(大正13)大阪電気軌道の開通時に八尾駅として開業。名称は大軌八尾駅、会社合併に伴って関急八尾駅、1944年(昭和19)に近鉄の駅になり、1970年に近鉄八尾駅になった。1978年(昭和53)高架化に伴って300m東(現在の場所)に移設された。

⑫ 旧八尾市庁舎と円形市民ホール

1948年(昭和23)八尾市発足当時は、旧八尾町役場の建物を市庁舎として利用。1951年(昭和26)年、八尾町役場の西側に面積約500坪で鉄筋コンクリート3階建の庁舎が完成。その後、市制10年に、鉄筋コンクリート4階建に増改築されるとともに、円形鉄筋コンクリート3階建の市民ホールが併設された。設計は、昭和30年代に多くの円形建築を設計したこと有名な建築家・坂本鹿男夫による。

⑬ 旧八尾小学校

1872年(明治5)に開校、昭和10年頃に建てられた校舎は、2階建ての立派な木造建築だった。

⑭ 環山楼

江戸時代中頃に豪商石田利清が設けた私塾。享保年間の建物。



まっぶ裏には各所の説明などが記載。

ぶらりまちあるき 長瀬川・八尾寺内町編

北村茂章さんオリジナルまちなみあるきまっぶを持って、6月2日(土)、旧大和川の歴史と八尾の建築をたどる「ぶらりまちあるき」を青空の下、実施しました。参加者はいつもより多く、八尾市外からの参加もありました。

今回は、旧大和川の堤跡や新田を発見するだけでなく、八尾にのこる歴史建築に注目し、JR八尾駅駅舎に始まり、旧帝国製糸跡(現マシオン群)、警察署、教会建築(八尾で唯一のヴォーリズ建築)、慈願寺、大信寺、八尾天満宮など寺社仏閣、レンガ造、八尾市役所庁舎、そして環山楼、とバラエティに富んだ各所を巡りました。また建物の中に入れていただくこともあり、参加者は大満足の様子でした。

いつもの風景をいつもと違ったものにしてくれるまっぶとまちあるきでした。

旧大和川を歩く

ぶらり まちあるき 長瀬川編

2018.06.02

安中新田会所跡 旧植田家住宅

北村さん
オリジナル
まちあるきまっぷ

現在の大和川は、江戸時代の宝永元年（1704）に付替えられた人工の川です。付替え前の大和川は、久宝寺川（長瀬川）や玉櫛川（玉串川）など数本の川の流れに分かれて、北西に、向かって流れ、淀川に合流していました。水とともに運ばれたたくさんの土砂が、低い土地を埋め立てることによって大阪平野がつくられてきました。しかし、いつまでも大和川は、土砂を運び続け、川底を浅くし、流れを緩やかにしました。人々は堤防を高くしたり、川底を掘り下げたりして、洪水が起こらないようにしましたが、がて、周辺の土地よりも川底が高くなった天井川となり、洪水が起こったときの被害がますます大きくなりました。洪水に苦しむ人たちは、350年程前に、今米村（東大寺）中基兵衛を中心に、大和川の流れをかえるように江戸に訴えるようになり、約50年後幕府は、元禄16年（1703）10月に付替えを決定し、宝永元年（1704）には工事が開始されました。工事は、大和川と石川が合流するところ（柏原の築留）に堤防をつくり、西の堺の方へと流れるように新しく川を付替えするというものでした。工期は、およそ7ヵ月半という短期間で、工事費は、71,503両（今のお金に換算すると約140億円）。工事後、河内平野の人たちは、洪水をあまり心配する必要がなくなり、付替えによる新田は、約1000haで、付替えによって失われた耕作地は、約270haでした。久宝寺川（長瀬川）や玉櫛川（玉串川）などの新しい耕作地では、木綿が栽培され、全国でも、有数の木綿産地となりました。

⑦レンガ倉庫

⑧大信寺

⑨八尾天満宮

10 常光寺

⑩常光寺

⑥慈願寺

八尾高校

④狐山（堤跡）

③八尾警察

②帝国製糸

①JR八尾駅

⑪旧近鉄八尾駅

⑫八尾市役所

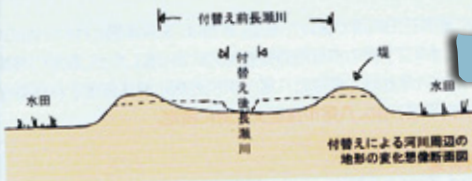
12 八尾市役所

13 八尾小学校

⑬八尾小学校

⑭環山楼

八尾図書館



堤跡段差

堤跡段差

淡川神社

淡川神社

安中新田会所跡

旧植田家住宅



『流れをかえる大和川』展 柏原市立歴史資料館



- 第 6 期 -

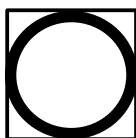
ボランティアガイド 養成講座、始まりました。

2018 年 5 月～ 8 月

ちょこっと「植田家検定」

【第 1 問】旧植田家の家紋を描いてください。

(図1点+名称1点)



() 紋

【第 2 問】次の漢字の読み仮名を () に入れてください。

1. 三和土 () 2. 簪葡萄 ()



養成講座、始まりました。

旧植田家住宅の案内ができるボランティアガイド(通称ボラガイ)を養成する講座は、平成 24 年(2012)から始まり、今年で第 6 期目を迎えました(間に 1 年休講)。現在、旧植田家住宅ではこの養成講座を受けられた 11 名のボラガイさんが登録され、活動機会はわずかながらも、日々旧植田家住宅の活動に関わってくださっています。

開講当時から養成プログラムはほぼ変わらず、全 4 回の講座と各種イベントへの参加を条件としています。まずはガイドとしての心得を学び、知識の習得、技術の向上(慣れる)を心がけていますが、一番大切なことはコミュニケーション(礼)を基本に、会話型のガイドが理想といえます。難しいことは抜きにして、お互い楽しくあることです。

さて今年の養成講座には 2 名の方が受講をされています。現時点で第 3 回の講座を終えましたが、第 4 回には「植田家検定」と実践が待っています。愛があれば何とか乗り越えられる優しい壁ですので、怖がらずに挑戦していただきたいと思っています。

(学芸員)

四会所だより (17)

扁額「明霞」の由来



この扁額は加賀屋緑地の庭園にあります。築山の明霞亭と云われている四阿のところに掛けられていました。昭和二十年、戦争で焼失する以前は四坪程の高殿造りの茶室の建物で、部屋が二つありました。江戸時代末期から昭和にかけてこの建物の前にこの扁額が掛けられていたものと思われまふ。今は鳳鳴亭の茶室のびわ床にずっと飾っています。

「明霞」とは霞の中かすみに明かりを見出すという意味で、堺・住吉間の西側に広がる海が夕焼けで明るく染まる情景が目に見えます。

扁額の裏側には文化七年(一八一〇年)、西本願寺十九世法主本如上人が堺より浪華に還る途中、福英宅に立ち寄った折に「明霞」の二字を賜ったとの事。

この報恩に報いる為に、この板に写し



「枕流漱石」

取ったと書かれています。この扁額の右上のところに小さな字で「枕流漱石」と故事の刻印があります。その意味は「漱」は訓読みで「口すすぐ」と読みまふ。「石」は枕し、流れに口すすぐ」と云うはずであつたが、男が「石に口すすぎ、流れに枕す」と云い、間違を指摘されると、「石に口すすぐは歯を磨くことで、流れに枕すは耳を洗うこと」だと強弁し、こじつけてうまく逃げることをたえや負け惜しみの強いことを表しています。夏目漱石の「漱石」はこの故事からつけたと云われています。

(住之江のまち案内ボランティアの会 桜井謙次)

現在の「明霞亭」
(「四会所だより」(5)参照)



●加賀屋緑地 / 加賀屋新田会所跡

- ・大阪市住之江区南加賀屋4-8
- ・地下鉄「住之江公園」駅下車、南東に徒歩15分
市バス「南加賀屋四丁目」下車、徒歩5分
- ・10時～16時30分 開園(月曜日、年末年始は休館)
- ・無料 ・お問い合わせ 06-6683-8151



扁額「明霞(めいか)」

なにわの伝統野菜 栽培日記

No.37

【先っちょないカラ】

前号でお伝えしたとおり、初期に先っちょをことごとく食いちぎられたウスイエンドウ。かなり出遅れながらも、それでも何とかがんばってこゝんな感じに←

先っちょないカラの…



14個(サヤ)！



……がんばりはしましたが、何せ「先っちょ全然ないカラ」8株で、できたサヤの数はたったの14個(笑)

これでは畑企画、毎年恒例の「豆ごはん」が悲しい状態に。畑メンバー20名+保護者10数名、約30名分と植田家スタッフを入れたお米2升半に豆62粒……(ちゃんと数えましたー) まちがいなく豆さがしゲームになる。

そんな寒いことになるどころだったが、長年畑指導にうかがっている永畑幼稚園さんのご厚意で(本当は泣きついて)十分すぎる量の豆を分けて頂いた。

おかげさまで今年も無事カマドで炊いた豆ごはんを皆で美味しく頂くことができた。永畑幼稚園の皆様、ごちそうさまでした、ペコリ。



【トウモロコシ穫ったどー！】

と言ってもわたくしKAMAは急用のため、収穫当日も休みをいただき、別のスタッフにお願いすることに。話によるとこちらまで「ごく一部」



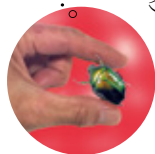
実の入りが悪く、また「先っちょないやん」状態だったそうだが、梅雨時期で収穫が少し遅れたものの、今回も「チームKANAABUN」(※植田家より18・29号参照)には、一切頭を突つ込ませることなく、余裕の三連勝となった。

おまけ

〈KAMAの成長日記〉

・GUM手袋をつけるとKANAABUNをつまめるようになりました。
慣れって怖いものです(笑)

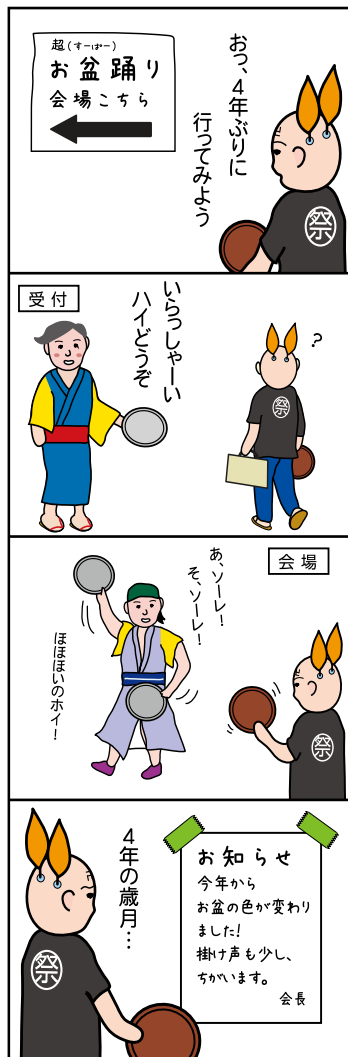
さらなる高みをめざして…



(画像は最新のCGを駆使しています)

マンジーくん

安富士 暁



いまや「夏は寒く、冬は暑い」ほどエアコンが普及した時代ですが、電気が無かった昔のくらしではどのようにして暑い夏と寒い冬を過ごしていたのでしょうか。旧植田家住宅では、夏の納涼企画として毎年「冷やし旧家、はじめました。」を開催しています。

タイトルはさておき、まずは風通しをよくするための工夫として、簾や簾戸などを紹介しま

2018年7月14日(土)～9月9日(日)

告知
◆冷やし旧家、はじめました。

植ちよぴ(ックス)

【植田家住宅のちよっとしたトピックス】

話題



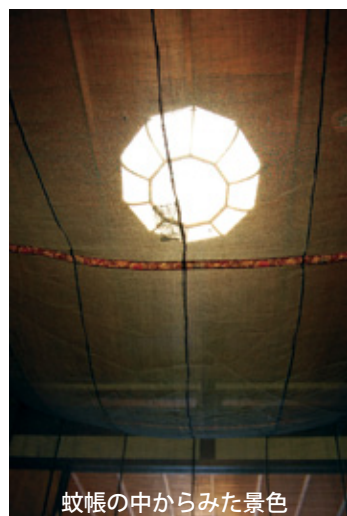
簾戸に入れ替えるための準備作業

す。準備は大変ですが、各部屋ごとの戸を入れ替えることで、空気の流れを作ります。また夜は蚊が寄って来ないよう蚊帳の中で寝ます。

あとは、たらいに井戸水をためて足をつけるだけで全身が涼しくなるなど...そう、いろんな創意工夫で夏も冬も乗り切ったのです(多分)。さて、そんな納涼体験をぜひ一度旧植田家住宅で味わってみませんか。期間限定販売の冷たいラムネと甘酒も用意しています。



足水用のたらいを調整中



蚊帳の中からみた景色

落穂拾い

― 今東光の薫風 ― (三十一)

文・伊東健

互いに生誕百二十年を迎えた今東光と東郷青児ですが、東郷は東光のことをどのように見ていたのでしょうか？

東郷の文章が残されています。

そのころ、東光ちゃんは小説にこつていた。五十枚ぐらいのものを一晚で書き飛ばしていた。できあがると私を聞き手に朗読し、読む方も聞く方もひどく興奮して夜の白むのも忘れることが多かった。その小説をどこかに発表するなどということはまだ考えてもいなかったらしく、一読するとたなに投込んで、また次の構想にとりかかるのだが、その構想のために、夜道をどこまでも歩き、二人ともくたくたになり、最後は公園のベンチで、始発の電車を待ったりしたこともある。

(東郷青児著「他言無用」昭和四十八(一九七三年

六月五日、毎日新聞社発行より)

そんな二人の前に宇野千代が登場します。東郷の回想が続きます。

そのころ、カフェー・パリとは目と鼻の燕楽軒でいつの間にか宇野千代が働いていた。すでに第一作を発表した後だったと思うがたいへんな評判で、文士から大学教授にいたるまで、押すな押すなの大盛況、界限の人気を一人でさらった観があった。その評判につられて、私も一度は拝顔したいとひそかに思っていたら、東光ちゃんが急に彼女に熱をあげるようになったので、私は軽く後手にまわってしまった。

いよいよとなると案外な弱気で、通いつめても言葉一つかけられないらしく、もだもだと思悩んでいるのを、私としてはただ傍観しているわけにもゆかないのである。謀議をこらし、段取りをきめて单身私が乗込み、東光ちゃんの心のたけを、代弁したしだいである。

エプロンを胸高にしまって、ぬけるような厚化粧をしたお千代さんは、まばゆいばかりの美しさだった。二三度かよった揚句、やっとデートの時間をきめて、赤門前の細い横町の

髪結いさんの二階に間借りしている彼女の戸口まで、東光ちゃんを誘導、やっと私は大役を果たしたのである。

その後の経過は彼の文学的表現で逐一知ることができたけれど、まだ夢の多い東光ちゃんと、すでに実生活の起伏を身につけたお千代さんでは、根本的にウェートのひらきがあり、これという花実も結はないうちに、彼女は本郷から姿を消してしまったのだった。(前掲書より)

もだもだしている純情な「東光ちゃん」のエピソードは、東郷青児にしか語れないものです。世に羽ばたく前に過ごした二人の青春は、まぶしいくらいにキラキラしていて、こんな時代を過ごした二人が、最晩年まで友情を保ち続けたことが奇跡のように感じます。

もだ もだ…



【2018年8月～10月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」

// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

◎7月20日(金)～9月2日(日)

通常展「大和川付け替えと
植田家の收藏品～工芸品編～」

◇8/11(土・祝)ギャラリートーク(学芸員の立ち話)
①13:30～ ②14:30～ 各20分程・同内容

◎9月5日(水)～10月24日(水)

通常展「大和川付け替えと
植田家の收藏品～資料編～」

◇9/17(月・祝)ギャラリートーク(学芸員の立ち話)
①13:30～ ②14:30～ 各20分程・同内容

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



企画

(詳しくはお問い合わせください)

8月

- 10・17・24・31日(金) 土蔵でクラフト(全4回) 各回定員10名
- 19日(日) 夏のお茶会 協力:八尾高校茶道部

9月

- 2日(日) 防災!かまどでご飯炊き体験&避難訓練
- 23日(祝・日) かまどで月見団子作り
観月会(夜間会館)

10月

- 13日(土) 講座「今東光の作品にみる八尾の文化(仮)」講師:伊東健氏

その他は未定



休館日カレンダー

■ = 休館日

■ はイベント開催日

8 August

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9 September

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10 October

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般250円(団体20人以上で120円)
高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者および介助者は無料

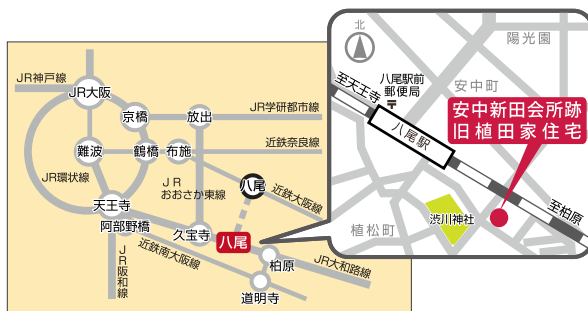
●お問い合わせ・見学のご相談 ※施設案内(無料)、講座室利用(有料)など

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

